**第68回日本病理学会秋期特別総会****令和4/2022年度　学術研究賞演説（Ａ演説）応募抄録**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ふりがな |  | 会員番号 |  |
| 応募者氏名 |  |
| 所属施設 |  | 職名 |  |
| 所属住所 | 〒 |
| 電　話: 　　　　　　Fax: 　　 メール: |
| 演題名 |  |
| 選考用抄録 (900字以内)記述の中で論文報告しているものについては、業績一覧の番号を附すこと |

**令和4/2022年度　学術研究賞(Ａ演説)応募者履歴書**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　西暦　　　年　月　日現在

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| （ふりがな） |  | 性　別 | 男　　女 |
| 応募者氏名 |  |
| 生年月日 | 西暦　　　　　　　　年　　　　　月　　　　　日　　（　　　　　才） |
| 本学会での受賞歴 |  |
| 学位および病理関係資格等 |  |
| 学歴(大学以降)および職歴 |  |
| Pathology Internationalへの総説投稿 | 以下について、ご了承後にチェックを入れてください。□ A演説を担当した場合、Pathology Internationalへ総説を投稿します。 |

学術研究賞演説（Ａ演説）選考用関連論文一覧

20編以内。以下の記載例に倣うこと。

著者は省略せず全員を記載すること。応募者に下線を付すこと。

別刷をつけた業績のあたまに「〇」印をつけること。

記載例:

論文

1. Suzuki I, Tanaka J, Yamada S, Ito S. Expression of ZRRF1 and its biological role in invasive ductal carcinoma of the breast. Pathol Int 50; 500-505, 2018

2. 田中二郎, 鈴木一郎, 山田三郎, 伊藤四郎. 浸潤性乳管癌の間質形成と臨床的特性. 診断病理, 50; 175-180, 2017

著書

. Suzuki I, Tanaka J: Prognostic markers for invasive breast cancer. Histopathology. (Ed) Yamada S, Ito S, Pathology Press, Tokyo, p.175-180, 2013

2. 田中二郎, 鈴木一郎: 乳癌の病理像と臨床像. 組織病理 (山田三郎, 伊藤四郎・編集). 病理書院, p.175-180, 2015

* 代表的な自著論文5編以内の別刷り